

調査の概要

1 調査実施の概要

(1) 調査の目的

道政上の重要課題や主要施策に関する世論調査を実施し、道民の道政に対する意向や意識の的確な把握に努めるとともに、政策形成に反映させることを目的とする。

(2) 調査項目

- 1) 安心して暮らし続けることのできる地域づくりについて
- 2) 少子化に対する意識について
- 3) 北方領土問題について
- 4) 文化に関する道民意識について
- 5) 男女平等参画を阻害するあらゆる暴力の根絶について
- 6) SNS利用を発端とした犯罪被害について
- 7) 持続可能な開発目標（SDGs）について

(3) 調査の方法

- 1) 調査地域 北海道全域
- 2) 調査対象 道内に居住する満18歳以上の個人
- 3) 標本数 1,500サンプル
- 4) 地点数 150地点
- 5) 抽出方法 層化二段無作為抽出法
- 6) 調査方法 郵送配布・郵送回収及びweb（スマホ）による回答
- 7) 調査期間 平成30年8月

(4) 調査実施機関

株式会社 ピーアールセンター

(5) 調査回収状況

標本数	1,500
有効回収数（率）	708（47.2%）

2 調査回答者の特性

区分		回答者数	比率
総 数		708	100.0%
圏 域	道央広域連携地域	432	61.0%
	道南連携地域	52	7.3%
	道北連携地域	67	9.5%
	オホーツク連携地域	37	5.2%
	十勝連携地域	54	7.6%
	釧路・根室連携地域	44	6.2%
	無回答	22	3.1%
人 口 規 模	札幌市	229	32.3%
	人口10万人以上の市	171	24.2%
	人口10万人未満の市	122	17.2%
	町村	117	16.5%
	無回答	69	9.7%
性 別	男性	312	44.1%
	女性	378	53.4%
	無回答	18	2.5%
年 代	18～29歳	118	16.7%
	30～39歳	123	17.4%
	40～49歳	120	16.9%
	50～59歳	136	19.2%
	60～69歳	116	16.4%
	70歳以上	78	11.0%
	無回答	17	2.4%
職 業	自営業／農林漁業	21	3.0%
	自営業／商工サービス業	31	4.4%
	自由業	21	3.0%
	事務職系	179	25.3%
	労務職系	109	15.4%
	主 婦	121	17.1%
	学 生	31	4.4%
	無 職	109	15.4%
	その他	64	9.0%
	無回答	22	3.1%
	居 住 年 数	1年未満	20
1～5年未満		60	8.5%
5～10年未満		66	9.3%
10～20年未満		98	13.8%
20年以上		399	56.4%
無回答		65	9.2%

注) 個々の比率(百分率)は、小数第2位を四捨五入したものである。
このため、各区分の比率の合計が100%にならない場合がある。

3 サンプリング

母集団	道内に居住する満18歳以上の個人
標本数	1,500サンプル
地点数	150地点
抽出方法	層化二段無作為抽出法

(1) 層化

① 北海道の市町村を、次の6圏域に分類した。

- 1) 道 央 札幌市・江別市・千歳市・恵庭市・北広島市・石狩市・小樽市
ニセコ町・岩内町・余市町・苫小牧市・室蘭市・登別市・伊達市・厚真町、
むかわ町・浦河町・新ひだか町・岩見沢市・芦別市・滝川市・砂川市、
由仁町・新十津川町
- 2) 道 南 函館市・北斗市・知内町・七飯町・八雲町・乙部町
- 3) 道 北 旭川市・名寄市・富良野市・東神楽町・東川町・中富良野町・留萌市
稚内市
- 4) オホーツク 北見市・網走市・紋別市・美幌町・訓子府町・湧別町
- 5) 十 勝 帯広市・音更町・士幌町・芽室町・幕別町・本別町
- 6) 釧路・根室 釧路市・釧路町・白糠町・根室市・中標津町

(注) アンダーラインは札幌市を除く人口10万人以上の市

② 人口規模別区分

各圏域については、「札幌市」・「人口10万人以上の市」・「人口10万人未満の市」・「町村部」と人口規模別に分類した。人口規模は、平成30年3月31日時点での住民基本台帳人口により分類した。

(2) 標本分配

調査対象が北海道内に居住する満18歳以上の個人であるため、平成30年6月1日時点の選挙人名簿登録者数を推定母集団とし、その大きさにより150の地点数を比例分配した。なお、各母集団は、住民基本台帳を提出原簿として採用した。

(3) 抽出

① 第1次抽出単位となる調査地点（各市町村、条町丁字名別）の抽出

各層に分配した調査の地点数分、調査対象地区を抽出した。抽出に際しては、「住民基本台帳人口」を基に各地点の住民基本台帳人口の累積度数を算出して、各層の総人口に対する累積占用率を算出し、調査地点数分乱数を発生させて、該当する150地区を抽出した。

② 第2次抽出単位となる調査対象者の抽出

対象者の抽出は、地点ごとに抽出間隔を算出し、住民基本台帳から等間隔に10人抽出し、調査標本1,500人を抽出した。なお、抽出に当たっては、満18歳以上の個人であることに留意した。

$\frac{\text{調査地点推定人口総数}}{10} = \text{抽出間隔}$
--

(4) 抽出結果

圏域別、人口規模ごとの標本数、調査地点数は次のとおりである。

圏域	人口規模	住民基本台帳 人口数 (H30. 5. 31現在)	構成比	選挙人名簿 登録者数 (H30. 6. 1現在)	標本数	地点数
道央広域連携 地域	札幌市	1,954,604	36.8	1,670,700	550	55
	10万人超都市	408,419	7.7	351,647	120	12
	10万人未満都市	679,517	12.8	585,541	190	19
	町村部	301,396	5.7	261,852	90	9
道南連携地域	10万人超都市	260,343	4.9	228,387	70	7
	10万人未満都市	46,632	0.9	39,119	10	1
	町村部	127,143	2.4	111,672	40	4
道北連携地域	10万人超都市	338,703	6.4	292,546	90	9
	10万人未満都市	124,814	2.3	108,266	30	3
	町村部	145,164	2.7	124,593	40	4
林-ツク連携地域	10万人超都市	118,105	2.2	102,160	30	3
	10万人未満都市	58,099	1.1	50,273	20	2
	町村部	106,829	2.0	92,251	30	3
十勝連携地域	10万人超都市	167,071	3.1	142,723	50	5
	町村部	173,672	3.3	147,199	50	5
釧路・根室 連携地域	10万人超都市	171,098	3.2	148,411	50	5
	10万人未満都市	26,136	0.5	22,557	10	1
	町村部	109,921	2.1	93,151	30	3
合 計		5,317,666	100.0	4,573,048	1,500	150

4 調査地点一覧

圏域		市町村	町丁目	圏域	市町村	町丁目	
道央広域連携地域	空知総合振興局	岩見沢市	春日町2丁目	道央広域連携地域	札幌市厚別区	青葉町9丁目	
			美園五条7丁目			厚別西5条5丁目	
			東町二条8丁目			厚別北2条2丁目	
		芦別市	北三条西1丁目			厚別北5条4丁目	
		滝川市	東町2丁目			札幌市清田区	平岡3条3丁目
		砂川市	吉野一条南4丁目				里塚4条3丁目
		由仁町	本三川				美しが丘2条2丁目
	新十津川町	字中央	札幌市手稲区			富丘2条6丁目	
	札幌市中央区	南4条西25丁目				稲穂3条3丁目	
		南15条西14丁目				新発寒1条3丁目	
		南23条西14丁目				金山2条3丁目	
		北1条西14丁目				江別市	緑町西1丁目
		北2条西23丁目					向ヶ丘
		北9条西15丁目					大麻園町
		宮の森2条3丁目	札幌市北区		真々地2丁目		
	北7条西6丁目	北陽1丁目					
	北21条西7丁目	住吉3丁目					
	北25条西18丁目	恵庭市			恵み野北7丁目		
	北27条西5丁目				緑町2丁目		
	北32条西3丁目	北広島市			輝美町		
	新琴似3条10丁目				中の沢		
	屯田7条9丁目		石狩市		花川北二条2丁目		
	新川西3条4丁目	札幌市東区	小樽市		末広町		
	北17条東2丁目				真栄1丁目		
	北32条東1丁目				桜3丁目		
	北34条東1丁目				新光1丁目		
	北43条東8丁目		二セコ町		字福井		
	伏古9条5丁目				岩内町	字大浜	
	東苗穂1条3丁目				余市町	沢町5丁目	
	東苗穂13条4丁目	札幌市白石区	苫小牧市		清水町1丁目		
	菊水5条2丁目				若草町3丁目		
	中央1条7丁目				川沿町3丁目		
	北郷4条11丁目				有珠の沢町5丁目		
	南郷通7丁目北		明德町2丁目		室蘭市	栄町1丁目	
	東札幌6条3丁目		八丁平4丁目				
	川北1条3丁目		白鳥台2丁目				
	豊平4条12丁目	札幌市豊平区	登別市		緑町1丁目		
	美園3条4丁目		伊達市		松ヶ枝町		
	美園8条2丁目		厚真町		表町		
	月寒東4条7丁目		むかわ町		花園3丁目		
	月寒西3条7丁目		日高振興局		浦河町	緑町	
	西岡3条2丁目				新ひだか町	清水丘	
	札幌市南区		豊滝(番地)		石狩振興局	江別市	緑町西1丁目
		石山東2丁目	向ヶ丘				
		簾舞5条1丁目	大麻園町				
		真駒内緑町2丁目	真々地2丁目				
札幌市西区		山の手4条9丁目	北陽1丁目				
	八軒2条東5丁目	住吉3丁目					
	八軒6条西9丁目	恵み野北7丁目					
	発寒4条7丁目	緑町2丁目					
	西野2条9丁目	輝美町					
平和2条3丁目	中の沢						

圏域		市町村	町丁目	
道南 連携地域	渡島総合 振興局	函館市	海岸町	
			的場町	
			日吉町4丁目	
			根崎町	
			山の手2丁目	
			美原1丁目	
			原木町	
			北斗市	昭和2丁目
			知内町	字涌元
	七飯町	大川4丁目		
八雲町	栄町			
檜山振興局	乙部町	字館浦		
道北 連携地域	上川総合 振興局	旭川市	1条通15丁目	
			10条通9丁目	
			旭町1条6丁目	
			春光5条9丁目	
			末広東2条10丁目	
			東光3条3丁目	
			永山8条14丁目	
			西神楽1線5号	
			緑が丘南1条1丁目	
			名寄市	2区3丁目
	富良野市	南町		
	東神楽町	南1条西2丁目		
	東川町	西町8丁目		
中富良野町	新町			
留萌振興局	留萌市	花園町4丁目		
宗谷振興局	稚内市	朝日2丁目		
オホーツク 連携地域	林-ツ総合 振興局	北見市	美芳町3丁目	
			常盤町4丁目	
			無加川町	
		網走市	駒場北4丁目	
		紋別市	落石町2丁目	
		美幌町	字新町2丁目	
		訓子府町	字柏丘	
湧別町	中湧別東町			
十勝 連携地域	十勝総合 振興局	帯広市	東4条南8丁目	
			東15条南4丁目	
			西15条南30丁目	
			白樺16条西1丁目	
			南の森西7丁目	
		音更町	新通4丁目	
		土幌町	字上音更	
		芽室町	東八条6丁目	
幕別町	札内桂町			
本別町	北3丁目			

圏域		市町村	町丁目
釧路・ 根室 連携地域	釧路総合 振興局	釧路市	川上町10丁目
			美原4丁目
			鳥取北3丁目
			鶴野東1丁目
			阿寒町阿寒湖温泉6丁目
			釧路町
	白糠町	白糠東二条北1丁目	
	根室振興 局	根室市	花園町4丁目
中標津町	西九条北		

5 この報告書の見方

- (1) 回答数（各回答の百分率）は小数第2位を四捨五入した。このため、個々の比率の合計が100%にならない場合がある。
- (2) 設問説明文にて複数の回答を求めているものには、2つ以上の回答を求めているものと、回答数に制限を設けているものがあり、いずれもその百分率の合計は100.0%を超える場合がある。
- (3) この調査は、標本調査であるため、全数調査の結果（真の値）から一定の範囲内で離れていることがある。これを標本誤差といい、層化二段無作為抽出の場合、信頼度95%のとき次の式で算出される。

$$b = \pm 2 \sqrt{2 \frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

b=標本誤差
N=母集団数
n=回答者数
P=回答比率

上記の表より、回答者数（n）、及び回答比率（P）ごとに信頼度95%の標本誤差を計算すると、おおよそ次のとおりとなる。

回答比率 (P) \ 回答者数 (n)	90%または10%程度	80%または20%程度	70%または30%程度	60%または40%程度	50%程度
708	±3.19%	±4.25%	±4.87%	±5.21%	±5.31%
500	±3.79%	±5.06%	±5.80%	±6.20%	±6.32%
300	±4.90%	±6.53%	±7.48%	±8.00%	±6.32%
100	±8.49%	±11.31%	±12.96%	±13.86%	±14.14%

※上表は $\frac{N-n}{N-1} \cong 1$ として算出している。

注) この表の見方

例えば、「ある設問の回答者数（n）が708で、その設問中の選択肢の回答比率が60%であった場合、その回答比率の誤差は95%の信頼度で、±5.21%以内（54.79～65.21%）である」とみることができる。

- (4) 圏域別（道央、道南、道北、オホーツク、十勝、釧路・根室）の該当市町村については、別途「4 調査地点一覧」（P7～P8）に記載している。
- (5) 設問ごとの解説は、回答数の多かった上位3項目を【全体】に記載し、このうち上位2項目について、【圏域別】【人口規模別】【性別】【年代別】【職種別】【居住年数別】の種別による状況を記載した。

